

一九二〇年代、芸術の都に  
青春を過ごした向井潤吉。  
ルーヴル美術館での摸写、  
そしてフォーヴィスムとの出会い。

1993年10月23日[土]—1994年1月30日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)/年末年始(12月29日—1月3日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

( )内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

《遅れる春の丘より》(長野県北安曇郡白馬村北城) 1986年



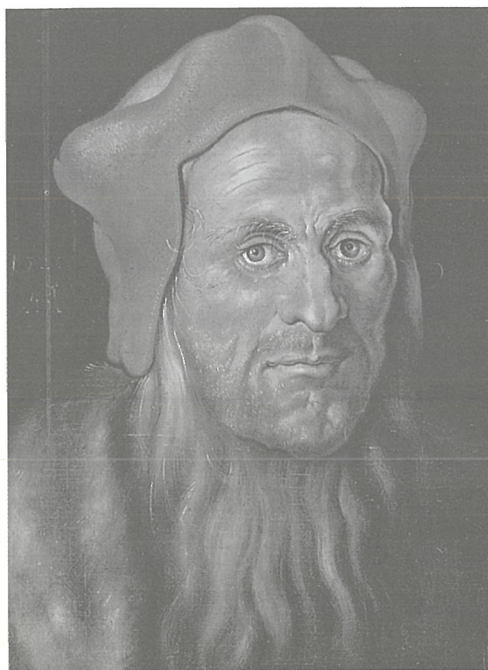
# 向井潤吉の滞欧時代 摸写とクロツキー、そして民家

《泉》(アングルの摸写) 1929年





《ばらの花を持つ女》(ルノアールの模写) 1927年



《老人の頭》(デューラーの模写) 1929年

向井潤吉は昭和2年(1927)から4年間にわたり、パリを中心に滞欧しました。このあいだに、ルーヴル美術館においてミレー、コロー、アングル、デューラーなど、多くの作品の模写を通して、西洋美術の本質と向き合い、物言わぬ巨匠の遺産から油彩画の技法をおおいに学びました。模写した作品は21点にもおよび、これは日本人画家としては、記録的な数字であり、向井潤吉の修行時代を象徴する、偉大な成果と見ることができましよう。そして、これらの作品はオリジナルの厳密な観察によって制作され、今なお瑞々しい光彩を放ち続け、若き画家・向井潤吉が創作にかけた情熱を物語っています。

また、夜間にはアカデミー・ド・ラ・グランド・ショミエールに通い、裸婦をモデルとしたクロッキーを数多く描き、短い時間で対象の動きを的確にとらえる習練を重ねました。しかし、残念ながらこれらの作品は現存していません。したがって、このたび出品しているクロッキーは、昭和34年(1959)に渡欧した折に、30数年前と同じ場所で、同じように描かれたものです。

向井潤吉の滞欧時代の創作は、こうしたアカデミックな手法を学ぶだけにとどまらず、パリ画壇を席卷していたフォーヴィスムの影響を強く受け、当時の前衛を意識した作品も制作しています。それらは、油絵具の特性を活かしながら、多くの色彩を荒々しい筆触によって重ね合わせ、複雑で奥行き深い色彩表現を獲得しています。また、そこに描かれている人物の表現にも、従前的なアカデミックな表現を乗り越えた、自由闊達で独特な表現が見られます。こうした創作は、禁欲的とも言えるルーヴル美術館での古典名作の模写とは相反しているようにも見えますが、油彩画の特質と技法、また伝統深き西洋美術の本質を学ぶには、ともに重要なことであったと言えます。つまり、こうしたさまざまな向井潤吉が試みた西洋美術とのかかわりは、その後の創作、とりわけ民家作品に見られる重厚感ある絵肌の感触と、うるおい豊かな光沢に見られる、油絵具ならではの表現に結実しているのです。

本展は当館が所蔵する模写作品、裸婦のクロッキー、またフォーヴィスム風の作品など、およそ30点と、滞欧以前の作品などを展覧しつつ、民家作品にその成果を見いだそうとするものです。



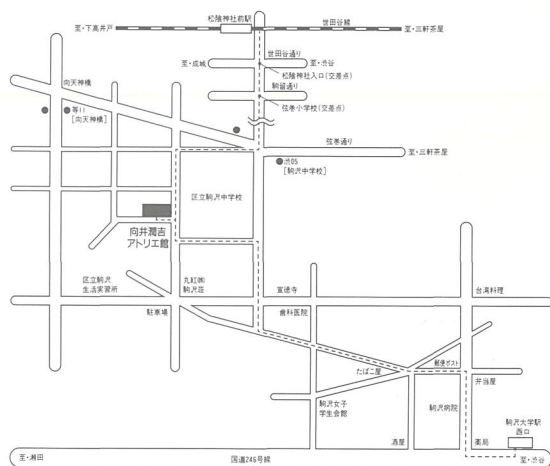
《街の力士》1928年



《裸婦》1959年



《峠の下の村》(岡山県苫田郡上斎原村天王) 1978年



●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線 [駒沢大学] 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線 [松陰神社前] 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (渋05) 渋谷～弦巻営業所 [駒沢中学校] 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷大蔵～等々力 [向天神橋] 停留所下車/徒歩6分
- 東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 [駒沢大学駅前] 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 [駒沢大学駅前] 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館  
**向井潤吉アトリエ館**  
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581